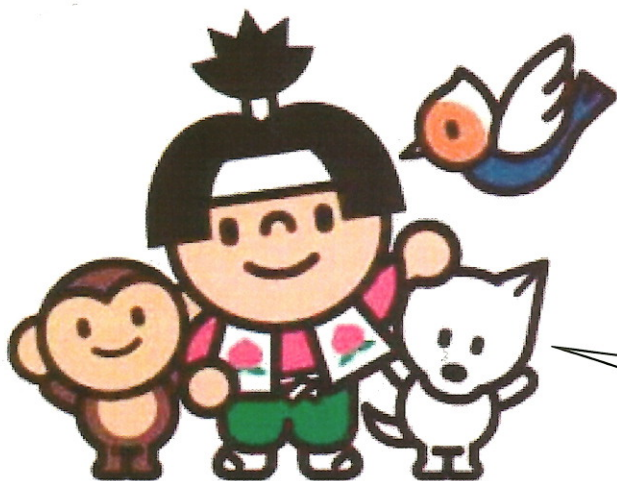


ももたろう通信



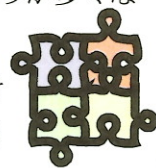
発行日：平成30年12月20日
発行：社会福祉法人つどいの家グループホーム
発行責任者：飯田克也（グループホーム管理者）
住所：〒981-8001
仙台市泉区南光台東 1丁目 10-19
連絡先：022-252-0348

私達は仲間と協力して
生活しています

※ももたろう新聞の由来：仲間と助け合い、共に作る広報誌

昨年7月に開催された日本グループホーム学会仙台大会の入居者メンバー十数名が、約半年ぶりに再会しました。互いに近況を報告しあい、7月の日本グループホーム学会あいち大会に参加された入居者の方から、入居者メンバーの方々にあいち大会の参加報告を行いました（あいち大会の報告については、本号3頁で紹介）。入居者メンバーのひとりAさんは現在グループホームを卒業し、アパートでの一人暮らしをはじめられました。一人暮らしはどうですか？と聞かれると、「ごはんが大変、でも自由で楽しい」と話されていました。自由な時間＝ひとりで過ごす時間ということではなく、自分のペースで過ごすことができるということだと思われます。では、グループホームではどうでしょうか。グループホームは、入居者数名で暮らしていますので、自分のペースだけで生活することはできません。しかし、入居者一人ひとりのペースを大切にしたい生活ができるようところがけねばなりません。「一人ひとりのペースを大切にしたい生活」、これは当たり前のことかもしれませんが、Aさんの話からあらためてその大切さを感じました。

話は変わりますが、9月から地域生活サポートセンター（ヘルプ/レスパイト/相談の3事業併設）の管理者を兼任しています。この間、ご家族の体調不良等により、緊急でレスパイトを利用し、数日間宿泊されるというケースが数件続きました。レスパイトは一時的なサービスですので、数日間利用した後は自宅へ戻るかあるいは他の福祉サービス（ショートステイ、グループホーム等）を利用することになります。現在、全国のグループホーム入居者数は11万8千人、宮城県においては、施設入所支援利用者1,835人、グループホーム入居者2,324人で、施設入所支援利用者数よりもグループホーム入居者数のほうが多くなっています（2018年8月現在、日本GH学会より）。グループホームの数は増えていますが、まだまだ障害の重い方のグループホームは十分とはいえません。住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう今後も取り組んでいきたいと思っています。（グループホーム管理者 飯田）

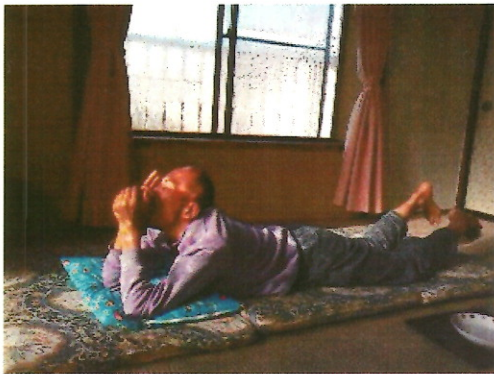


グループホーム紹介（オキーノ）

とても魅力的な E さん

E さんは、「ことば」で自分の意思や感情を伝えることはできません。

しかし、職員等の言葉や気持ちに対して様々にリアクションしてくれます。歌を一緒に口ずさんだり、腕を組んで一緒に歩いたり、顔を近づけて頬を合わせたり。満面の笑みを浮かべ 10 分程笑い続けることもあり、周囲もつられて笑顔になってしまいます。そんな E さんの日常を少しだけご紹介させていただきます。



E さんの朝は早い

まだ夜も明けぬ午前 3:30、E さんは目を覚まします。

「シュシュシュッ」と声を出しながら、2 F の居室より勢い良く 1 F リビングへと降りてきます。

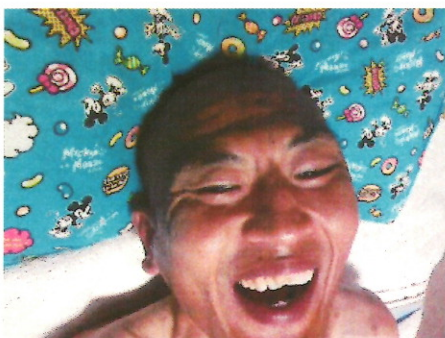
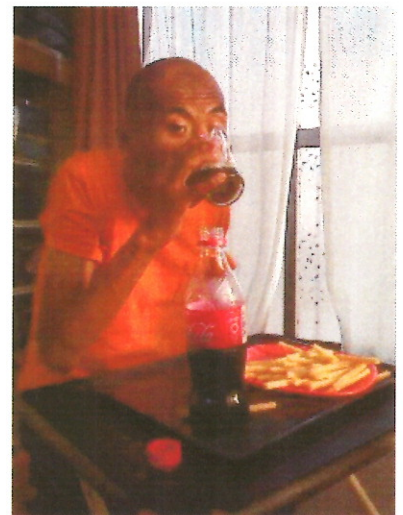
7:00 の朝食までの間、アイドリングする車さながら、声を出したり、体を動かしたりして、1 日のスタートを切る準備をしているようです(途中でまた眠ってしまうこともあるのですが…)。

E さんの夕方は忙しい

日中の時間を通所施設で過ごし、夕方グループホームに帰宅する E さん。帰宅早々リビングへ駆け出し、専用のお盆と皿を手にとると職員の横へ。腕を組み 2 F の居室に職員を連れ出すと、押し入れからミニテーブルを取り出します。

E さんの至福の時、「おやつタイム」。

お母さんが差し入れてくれたものや、時には職員と一緒にコンビニへ行き買ってきたものをゆっくりと食べます。お菓子を食べ終えた E さんは、1F へ降り駆け足で浴室へと入って行くのです…。



E さんの夜は短い

18 : 00 に夕食を食べ始めると、20 分程で完食。

食事を終わると、だんだんソワソワしてくる E さん。

歯磨きやトイレを済ませるとまぶたが重くなってきます。

職員の腕に組みつき、自身の胸をポンポンと叩きアピールし、19 : 00 過ぎには布団に入り眠りにつくのです。

休日の E さん

休日はヘルパーと一緒に温泉に行ったり、グループホームの近所を散歩したり、音楽サークルに参加したり外出する事が大好きな E さん。

最近ではグループホーム近所の床屋で散髪をしたり、喫茶店でコーヒーを飲んだりすることも。そんな時は外行きの少しすました顔をしている E さんです。ふたりで腕を組み歌を口ずさみながら歩いている少しすまし顔の人を見かけたら、それはきっと E さんかもしれない…(是非声をかけてください！)

(記：廣島)



日本グループホーム学会 全国大会 in あいち



今年の夏は本当に暑かったですね。そんなこの夏、当日の現地気温(37.5℃)よりもはるかに熱い思いをもって、愛知県に集まった皆さんがいました。にじいろで生活しているSさんもそのうちの一人です。

7月14日(土)、15日(日)愛知県にて開催された「第15回 日本グループホーム学会 全国大会 in あいち」に参加されました。Sさんは昨年、同大会が仙台で開催された際には、準備段階から他のメンバーと共に参加。テレビ電話で沖縄のグループホームと交流をしたり、大会当日には会場にて受付係などを担当したりと活躍されました。その時から今年の愛知大会に参加を希望され、実現しました。

あいち大会では午前各地のグループホーム入居者が一堂に会し、互いに意見の交換を行ったり交流を深めるなどの「入居者大集合 in あいち」に参加。今年も事前にテレビ電話での交流を行った方と当日実際に会い、名刺の交換などを行っていました。午後には大ホールに場所を移し

「聞いてほしい～わたしたちを感じる差別～」と題して代表者の意見を聞く「入居者パネルディスカッション」に参加され、時に楽しそうな、時に真剣な表情をされていました。



な、ごやは
あつくて
とってもい
、ところてす
またせび
さんか
したいてす

そんなSさんに今回の全国大会に参加した感想をききました。

「名古屋はどうでしたか？」(職員)

「東海道新幹線、速かった～。新幹線の3列に座りました。」(Sさん)

「今回の全国大会で一番思い出になったことは何ですか？」(職員)

「コミュニケーションしたことが楽しかった。」(Sさん)

…などと話され、大会当日を思い出していらっやいました。

また、来年以降も参加を希望され、「近くだといいな」と話されていました。(記：東海林)

～入居者懇談会から～

月1回グループホームの入居者が集う入居者懇談会。9月の懇談会の話題を抜粋して紹介します。

●台風21号・北海道胆振東部地震のニュースから…

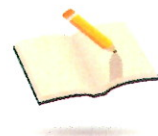
「水もない。電気もない。どうやって(行方不明者を)探したのかな」「前の地震(熊本)の時は、募金をしたよ。またやりたい」「(地震は)怖い」など、さまざまな感想がありました。

●「グループホームでちょっと待って」と言われた時…

「待ってと言われて、そのまま“たらい回し”にされることがあります」と、最近困っているという意見がありました。「他の人が終わってから自分のことをゆっくりしてもらおう」「遠慮なく、他の人ばかりしないで!と言う」「何も言わず、我慢している」と他のメンバーからの意見。職員からは「待たせてしまうのは申し訳ないけど、仕方ない場合もある」との話。話をしていく中で、「待たせてすまない気持ちや、待つ理由を伝えてもらおう」と、「嫌な気持ちにならないね!」と、皆で解決策を考えることができました。

懇談会では久しぶりに会う入居者もあり、「会えてうれしい」「今度、一緒に遊ぼう」という言葉が飛び交うこともあります。懇談会の前後にある雑談も、参加者の楽しみになっているようです。(記 加藤)

共生社会を考えるセミナー「明石洋子氏 講演会」



～地域の中でありのままに生きる～

10月25日に宮城野区文化センターにてつどいの家講演会「地域の中でありのままに生きる～支援の輪を広げて45年：共生社会を目指して～」が行われました。神奈川県川崎市にある社会福祉法人あおぞら共生会副理事長・明石洋子氏を講師に迎え、自閉症の息子さんとの関わりや支援についてお話ししていただきました。

息子の徹之さんは自閉症という障害を持っていますが、現在、川崎市の公務員として働いています。母である洋子氏は試行錯誤しながら、徹之さんに情報を伝える為の工夫をしたり、「明石通信」という徹之さんのことを載せた広報誌を作って地域の方々に配布することで、徹之さんの事を周囲の人たちに伝える活動をしてきました。それらの活動を通じて徹之さんが自分の進路を自分で決める（高校に行きたい！清掃局で働きたい！など）ことに繋がっていったのだとお話ししていました。周囲の人たちが徹之さんの障害に対する理解をしていく事で、徹之さんが地域でありのままに暮らす事が出来るようになっていった過程を知る事が出来ました。

印象に残ったことは「肯定的な伝え方をする」という事です。私達は支援している過程で「～してはダメ」の様な否定的な伝え方をしがちです。「～しましょう」などの言葉かけや視覚的な工夫（写真・絵カード）など伝え方の工夫（合理的配慮）がとても大切であり、その部分はもっと時間をかけてお話しを聞きたいと感じました。（記 後藤）



福祉まつりウェルフェア参加



9月7日（月）に勾当台公園市民広場にて『福祉まつりウェルフェア 2018』が行われました。AさんとIさんも「ザ☆せんだい組」の一員としてステージ発表に参加しました。まずはレストランで美味しいお昼ご飯を食べて、お腹を満たしてから会場へ。せんだい組のメンバーも続々と集合し、二人も笑顔で挨拶をしたり「今日は楽しもうね」「頑張ろう」などの声をかけ合っていました。天気も良く、暑い中で待ち時間が少し長かったこともあり、疲れや不安そうな表情が見え始めました。しかし、前のグループの発表が終わり、自分たちの順番が来ると、「やるぞ！！」という気合の入った表情に変わりました。始めは、それぞれが選んだ曲に分かれての発表。Aさんは『tomorrow』を手話を交えながら、Iさんは『きよしのズンドコ節』を腕を振って「きよし！！」と大きな声で歌っていました。最後は全員でルパン三世のテーマ曲に合わせて、全身を使ってダイナミックなダンスを披露しました。お客さんも手拍子をしてくれたり、一緒に歌ってくれたり、会場全体が一体感に包まれて盛り上がりました。せんだい組の出番が終わり、ステージ袖に戻った時の二人は、達成感にあふれた良い笑顔でした。仲間や地域の皆さんとの素敵な思い出が、また一つ増えた日となりました。（記 坂本）

編集後記

朝晩の冷え込みで、お布団から出るのが辛くなってきました…。熱々おでんがおいしい季節ですね。私は大根と出汁巻き卵が大好きです(^)。皆さんの好きな具材は何でしょうか。風邪やインフルエンザが怖い時期となりますが、おいしいものたくさん食べて元気に過ごしましょうね～！（記 伊達）